

PRO X

PRO X G3.4.4で起きる既知の問題について



技術情報

MIDAS PRO X - G3.4.4 既知の問題

症状	PRO X を起動する時、約 1/100 の確率で GUI 1 または GUI 2 が完全に起動せず、スプラッシュスクリーンまたはテスト画面状態が残る可能性があります。 (この症状が出る頻度は低く、起動時にのみ発生します。)
解決方法	この問題は再起動することで解決します。

症状	システムを起動する時、約 1/70 の確率で 4 つの DL571 DSP カードのうち 1 つが完全にオンラインにならず、緑色に点滅しないことがあります。 (この症状が出る頻度は低く、起動時にのみ発生します。また、再起動時には発生せず、4 つのカードのうちの 3 つは標準動作でのみ使用されます (4 つめはリダンダントです。))
解決方法	この問題は再起動することで解決します。

症状	ショー・ファイルを読み込んだ状態でシステムを再起動すると、ショー・ファイルを保存するまで MC が同期されているように見えますが、動作中の MC はスタンバイ中の MC との同期を失います。 (この場合、スタンバイ中の MC はショー・ファイルの保存ができません。)
解決方法	次のいずれかの方法に従ってください。 ・シャットダウンする前にショー・ファイルを保存して閉じます。 ・コンソールを強制終了します (実行前にショー・ファイルを保存してください)。

症状	オーディオ出力を持つ I/O ボックスを Neutron NB の AES50 ポートにリダンダントケーブル込で接続し、Neutron エンジンより先に起動した場合、出力がミュート状態のままになります。 注：起動時のみに発生する問題です。使用中には発生しません。
解決方法	作業手順 1 - ショーファイル 1. I/O ボックスが設定されていない状態を「セットアップ用」などの名前を付けたショーファイルを作成します。 2. 起動後、このショーファイルから Safe シーンをリコールします。 3. 通常運用の I/O ボックスが設定されたショーファイルを開きます。 4. Safe シーンをリコール後、任意のシーンを選択しリコールします。 作業手順 2 - プリセット 1. IO 設定とパッチングをプリセットファイルへ保存します (この動作は一度だけ行う必要があります)。 2. 起動後、Diagnostics → Config へ移動します。 3. 「Remove all IO」を実行します。 4. パッチングページに移動し、ステップ 1 で作成したプリセットを読み込みます。 代替手段：コンソールをシャットダウンする前に、IO 設定を削除してください。次にコンソールを起動する時、ショー・ファイルまたはプリセットを読み込んでください。 注：どちらの場合でもすべての IO 設定を削除する必要はなく、影響を受ける IO ユニットだけを削除することで出力がミュート状態のままとなる問題は解決されます。ただし、どちらの方法でもコンソール全体を更新する方が簡単に解決できます。

PRO X

PRO X G3.4.4で起きる既知の問題について

症状	ファームウェアアップデートの際に ID5以降の ID を持った DL231 を見つけることができない場合があります。
解決方法	ID1 から ID4 の ID に設定しファームウェアを更新してください。

症状	Neutron のメインルーターと NB カードとの間で I/O ボックスのメインと Cable Red AES50 の接続を分割する場合、音声途切れることがあります。
解決方法	I/O ボックスの AES50 ポートは、Neutron ルーター AES50 ポートもしくは、Neutron NB カードの AES50 ポートのどちらかにまとめて接続してください。

症状	イーサネットトンネルを使用した通信データが途切れる現象が発生します。
解決方法	可能な限り使用しないでください。